



HABATAKI

はばたき

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

52-1 Yada, Suruga-ku Shizuoka-shi Shizuoka-ken 422-8526 Japan

inside NEWS



CONTENTS

| | | | |
|------------------|----|-------------------|----|
| 第19回剣祭 | 1 | 国際交流 | 22 |
| はばたき寄金からのお知らせ | 2 | 創星会 | 22 |
| 学生スピーチコンテスト・最優秀賞 | 3 | しずおか新産業技術フェア2005 | 23 |
| 夏期語学研修 | 5 | 寄附講座開設 | 23 |
| インターンシップ | 8 | 静岡健康・長寿フォーラム | 24 |
| 著書紹介 | 9 | シドニー・ブレンナー博士特別講演会 | 24 |
| 教員の人事 | 10 | 産・学・民・官連携を考える集い | 25 |
| 部局の動き | 11 | クラブ・サークル紹介 | 26 |
| 研究助成採択 | 17 | 谷田風土記 | 27 |
| 受賞・選出 | 17 | 奨学金授与 | 27 |
| 図書館だより | 19 | | |

第19回剣祭 ~ツルギ日和に包まれた2日間、県大パワー全開!~

概要

10月29日(土)~30日(日)の両日、第19回剣祭が開催されました。今年のオープニングセレモニーは、西垣学長の挨拶に続き、聖火リレーが行われ、聖火台に火が灯されてスタートしました。

学部棟では、「チームdeすごロック」やアコースティッククラブ等によるライブ演奏などのイベントが行われ、書道部、華道部、写真部などの文科系クラブの展示、発表、健康増進研究会による骨密度測定、研究室公開も行われました。また、「おうち探検隊」、「イライラもぐもぐ」や漫画研究会のコーナーは、子供たちに大人気でした。

ユニバーシティプラザでは、多くの模擬店が出店し、模擬店No.1決定戦も行われ、体育館やコミュニティプラザでは、恒例のフリーマーケットも行われました。

モニュメント下や学生ホールでは、軽音楽部のライブが、大講堂では、「愛」をテーマにしたジャズダンス部の舞台公演や箏曲部の優雅な調べが披露され、小講堂では、アカペラライブで美しいハーモニーに酔い、笑研ライブで大いに笑い、演劇部の迫真の演技には拍手喝采が送られました。

ツルギ日和に包まれた2日間、県大パワー全開といったところでした。



剣祭実行委員会から

剣祭実行委員会委員長

国際関係学部 国際関係学科3年

今泉 均

今年の剣祭も大成功を収めることが出来ました。県大生をはじめ教職員の方々、当日足を運んで頂いた皆様のおかげです。

1日目には途中からあいにくの雨となってしまいましたが、2日目は晴天となり、無事剣祭を終えることが出来ました。ご来場下さった方も各団体による模擬店や発表、研究室開放やゼミ紹介など様々な県大生の姿に触れ、エネルギーを受け取っていただけただけではないかと思えます。

今年の反省を踏まえ、第20回剣祭に向けて活動していきます。来年もみなさんの手で笑顔に満ちた素晴らしいものにして下さい。本当にありがとうございました。

はばたき寄金からのお知らせ

第9回学生文芸コンクール入賞作品決定

今年度の文芸コンクールでは文芸部門として、小説、紀行文、詩・その他、短歌、俳句を、また、評論部門（テーマ:今、私たちがやらなくてはならないこと）を募集したところ、文芸部門で29人から44作品（小説11・紀行文4・詩13・短歌9・俳句6・その他1）の応募がありました。

本学の先生方による審査が行われ、次のとおり入賞作品が決定しました。

表彰式は剣祭初日の10月29日（土）に行われ、辻副学長から賞状と副賞が贈られました。

〔入賞一覧〕

| 部門 | 賞区分 | 作品題名 | 氏名 | 所属 |
|----|------|------------------------|-------|-----------|
| 文芸 | 最優秀賞 | 小説 クリームソーダ | 高橋 智洋 | 薬学部3年 |
| | | 詩 空色の鉛筆 | 阿部 紋子 | 薬学研究科2年 |
| | 優秀賞 | 小説 Lucy | 水嶋 康介 | 薬学部3年 |
| | | 小説 鳥籠の猫 | 杉山あづさ | 国際関係学部2年 |
| | | 小説 Psycho鉄橋の詩 | 望月小羊子 | 国際関係学部3年 |
| | | 詩 今 | 近藤 雅紘 | 薬学部1年 |
| | | 詩 茨姫 | 鈴木 文子 | 食品栄養科学部3年 |
| | | 詩 ともだち | 滝田かおり | 看護学部4年 |
| | 佳作 | 小説 ビートは心臓の鼓動、ベースは思考の細動 | 山口 賢彦 | 薬学部3年 |
| | | 小説 大学狂想曲 | 竹下真太郎 | 国際関係学部2年 |
| | | 小説 静なる紗幕 | 水野 大輔 | 経営情報学部1年 |
| | | 詩 高倉ということ | 小橋 翔太 | 食品栄養科学部3年 |
| | | 詩 虚像 | 大石 朋美 | 国際関係学部2年 |
| | | 詩 祈りの日 | 大石 涼子 | 国際関係学部2年 |
| | 努力賞 | 小説 アヴァンポップ・サニーデイ・サニーデイ | 森山 裕介 | 薬学部3年 |
| | | 紀行文 鉄道の旅 | 多田 賢吾 | 国際関係学部3年 |
| | | 短歌 りくつ家の歌 | 佐藤美和子 | 薬学部4年 |
| | | 短歌 一周忌 他 | 藤井明日美 | 国際関係学部4年 |



第8回学生スピーチコンテストを開催

スピーチコンテストが、同じく剣祭初日の10月29日（土）に開催されました。今回は「県立大学と私」をテーマに、日本語の部4人、英語の部8人の参加がありました。

はばたき寄金運営委員会委員の先生方などにより審査が行われ、入賞者が次のとおり決定しました。



〔日本語の部〕

| 賞区分 | 氏名 | 所属 |
|------|------------|----------|
| 最優秀賞 | 渋谷 美樹 | 看護学部2年 |
| 優秀賞 | ディンティホンニユン | 薬学部1年 |
| 入選 | 渡邊友加里 | 看護学部2年 |
| 入選 | 西島 香菜 | 国際関係学部1年 |

〔英語の部〕

| 賞区分 | 氏名 | 所属 |
|------|-------|----------|
| 最優秀賞 | 後藤 実穂 | 国際関係学部3年 |
| 優秀賞 | 鈴木香寿美 | 国際関係学部1年 |
| 入選 | 趙 亭 | 国際関係学部2年 |
| 入選 | 丁 婕 | 経営情報学部3年 |
| 入選 | 鈴木健太郎 | 国際関係学部2年 |
| 入選 | 西谷友里枝 | 国際関係学部2年 |

第8回学生スピーチコンテスト～最優秀賞～

<日本語の部>

「県立大学と私」

看護学部 看護学科2年 渋谷 美樹

人の命の重さを、私は今でも忘れません。大切な人が病気で苦しんでいても、なにもできなかったあの頃の自分がいたから、私は今、このキャンパスで看護を学んでいます。

私の祖母は今から7年前、病気で亡くなりました。祖母は病院で入院中、細い腕には点滴が刺さり、酸素マスクをし、会話をすることすらできませんでした。本来ならば、私が祖母を励ますべきなのに、変り果てた祖母の姿に、ただ泣くことしかできずにいました。この経験が、私が看護の道へ進むきっかけとなりました。どうせ看護を勉強するならば、知識や技術だけでなく、幅広い分野について学び、国際的にも通用する看護師になりたいと思ったとき、県立大学しかないという結論に達しました。

私ははじめて県立大学を訪れたときも、今日と同じ剣祭の日でした。モニュメントへ向かう坂には、たくさんの学生たちがサークルや部活ごと、模擬店を出し、各々が発表などを通し、剣祭を楽しんでいるのが目に留まりました。それから今、こうしてここに立ち、自分もこの大学のひとりとなり、剣祭に参加しているのは、今でも夢のような気がします。

県立大学に入学し早1年半。これまで看護を勉強していくうえで、常に「大切な人を助けたい。看護を学んで、人の役に立ちたい。」という想いがあった一方、「学校を辞めたい。もう勉強なんかしたくない。」と思うことが今までに何度もありました。人の命を預かるという看護は、私が想像していたものよりも、ずっと厳しいものでした。1年生の時から基礎科目、専門科目を数多く学び、看護の技術や知識はもちろんのこと、将来、海外でも通用するように、英会話や、看護の分野にかかわらず、他の分野の講義にも多く出席しました。学ぶことが多い中で、看護学部では、単位をひとつでも落としてしまえば、留年という現実でした。60点以上、テストで点数が採れなければ、「不合格」という壁は、私にとって容易に超えられるも

のではありません。そして60点以上の点数が取れば、その科目が完璧に習得できたというものではないのです。友達と分からないところを教えあったり、先生の部屋まで押し掛け、同じ所を何度も何度も教えてもらいました。私がここまで頑張ってきたのも、一緒に頑張れた友達や、丁寧な指導をして下さった先生たちに恵まれていたおかげだと思います。

1年生の後期、私は学校から離れ、はじめて病院の患者さんを担当させていただき、実習を行いました。学校で習った知識を生かそうと、患者さんにこれをしてあげようと自分の中では考えていたものの、患者さんとの信頼関係を築くのはとても難しく、会話すらままなりません。そこには7年前、祖母に何もしてあげられなかったときの私がありました。「患者さんとのコミュニケーションが看護の基本」という言葉を思い出しました。それから毎朝、「おはようございます。」と患者さんに挨拶をすることから1日のスタートを切るようになりました。するとだんだんと会話が広がるようになりました。実習の期間は1週間という短い時間でしたが、あのとき病気で苦しんでいた祖母の気持ちが少し理解できたように思います。もし、私があのときに戻れたら、祖母の手を握り、泣き顔ではなく、笑顔で学校のことや、自分の将来の夢を話してあげたいです。しかし、もうあのときに戻ることはできません。そこで、祖母のように病気で苦しんでいる人たちに対し、少しでもその気持ちを和らげ、支えになってあげたいです。それが看護の本質だと私は思います。

まだまだ勉強しなければならないことは、たくさんありますが、熱心な先生方や、同じ目標をもった友人、そして富士を望む美しいキャンパスの下、より一層自分自身を高めていきたいです。そして、2年半後、私は看護師となり、県立大学で学んだことを誇りに社会に貢献したいです。



< 英語の部 >

「Realizing a Dream」

国際関係学部 国際言語文化学科3年 後藤 実穂



Getting into this university was one of my dreams. I am honor to be a student of this University of Shizuoka, in the place where I was born and raised. In addition, I have spent some of my childhood days in Canada. Since then, I have been willing to live my life connected with English. In high school, I belonged to the International Class, so when I made up my mind to go on to university, the International Relations Department in this university was very attractive to me. There were 3 main things I was hoping to do after entering this university.

First thing was to join the soccer team. Soccer has always been my favorite sport. I liked playing soccer since I was a little child. The good thing about this university is that there's not only boys' soccer team but also girls' as well. So when I got into this university, I chose to be in the girls' soccer team without hesitating. Soccer is a team sport, so cooperating and getting along with other teammates is very important. The training camp I went with my teammates taught me the importance and pleasures of cooperation. It was my first time going for a training camp, and so I was very excited. The trainings were hard under a very hot weather, but the meal time after the hard practice was the best!! The free time at night was also the good part of the camp. Through club activities, I have had many precious experiences which I have never had.

Secondly, I was looking forward to taking classes in this university. I could study further on the field I have interest in. I am studying on Australia, which I'm interested in Aborigines, since I visited Australia for a study trip in high school. I am curious about their everyday lives and most of all, the Aboriginal Art. I've been to an Aboriginal Museum in Sydney, and I was impressed by how they each had meanings in the picture. Moreover, I have been interested in law, and I was satisfied to take the course. Likewise, I'm enjoying my studies in this university.

Thirdly, the biggest purpose of the study is to improve

my English level and to work globally. Ever since I have lived in Canada, I put a goal to be active internationally. I'm taking many of the English courses and also TOEIC exams to make progress in English. Also to keep up speaking English, I would like to go overseas and communicate with the local people while I'm in university. Now that I'm looking toward job, I'd be glad to get a job related to a foreign-affiliated firm where I can make full use of my experience and my English ability to work.

Lastly, studying in this university made a step closer to my dream. I want to keep on trying new things and do my best to realize my next goal. Once again, I am happy to be a student of this University of Shizuoka.



浙江大学夏期語学研修に参加して

国際関係学部 国際言語文化学科2年 鈴木健太郎



今回の浙江大学夏期語学研修は幸運にも恵まれ、非常に有意義な一ヶ月となった。しかし今振り返ってみ

ると、予期せぬ事態にも見舞われた。到着後ほとんどの人が体調を崩してしまい、異国という不安の中、皆の協力で何とか乗り切った。私自身もひどい風邪のような症状に3日ほど悩まされ、40度近く熱が出て、病院で夜遅くまで点滴を打ったのを覚えている。体調が悪くベッドに横になっている時でさえ、看護婦さんが容赦なしに中国語で容態などについて質問してきたのはつらかったが、それでも自分は何とか答えていたので中国語の進歩にそのとき気づいた。

次に語学面についてだが、やはり日本で勉強する中国語ではわからなかった面が多くわかった。授業は月～金まで毎日、午前中3時間あった。内容は習ったものも多かったが、いざ中国語で授業を受けるとリスニングに半端でない集中力を要した。はじめのうちは授業後、神経を使い果たしてしまった感じでくたくたになってしまった。質問するとき、回答するときもすべてが中国語なので、みな自分たちの中国語を試行錯誤しながらコミュニケーションを図っていた。私は個人的に午後は家庭教師を頼み、2時間ほど中国語を教えてもらった。家庭教師といっても同年代の大学生だったので本当の友達のような感覚で接することができ、本当によい交流ができた。私は日本では中国の留学生とよく交流をもったが、中国にいる現地の日本語もまったくわからない大学生とは初めて接し、すべて中国語で意思を伝えるむずかしさ、文化的な違い、コミュニケーションスタイルの違いなどいろいろ再発見がたくさんあった。しかし、違いがたくさんありながらも、同じアジア精神と歴史的に深いつながりがある中国なので簡単な意思疎通にはあまり不自由しなかった。こちらの中国語も完璧ではないがかなり正確に理解してもらえたとし、日本の漢字を中国語読みすればだいたいわか

ってくれるし、聞き取れなくても筆談でほぼ90%意思疎通は可能だった。彼とは性格もかなり合い、いつも話が尽きることはなかった。

この広大な中国では、また自然の偉大さにも感動した。それは中国で大潮と呼ばれるものである。大潮といっても日本ではあまりなじみがないだろうが、ここ杭州を流れる銭唐江川が1ヶ月に一度大逆流することをいう。これは太陽と月の引力の関係と、地理的要因が重なって起こるようだが、世界でも珍しいこの逆流を見れるとは思っていなかった。偶然、家庭教師の大学に遊びに行った日に、彼の友達に新聞を見る、と言われて見たらちょうどその日が大潮の日だった。自転車で2時間ほど行き、1時間ほど待ちやってみることができたが、それだけの苦勞をして見る価値は十分あった。川の幅は1km程あったと思うが、端から端までいっぱい広がった波がまるで津波のように押し寄せてくる。あの轟音と、濁流の勢いには、自然の神秘に感動させられた。その帰り道、たまたまテレビ局の人が来ていて、私と家庭教師がインタビューされた。その日の夜のニュースで放送され、私のインタビューは残念ながらカットされたが、横に自分が映っていたのでまたまた感動してしまった。

今回の語学研修では、生きた中国語がどういったものであるかがわかり、また同時に私たちの中国語の未熟さを実感した。また、中国という国の魅力を再発見し、更に深く知りたいことも今多くある。3週間という短い期間だったが、私たちの心の中は貴重な思い出でいっぱいだ。ただ心の中にしまっておくのではなく、この経験を生かし、更なる語学や知識を身につけていかなければ本当の意味で有意義な研修だったとはいえないと思う。今はまた近い将来中国へ行けるよう、皆それぞれ日本で、更なる中国語の勉強に励んでいる。



ニューカッスル大学夏期語学研修に参加して

国際関係学部 国際言語文化学科2年 白井 智



皆さんは、海外旅行をしたり、語学研修に参加するときどのようなことを学ぶでしょうか？もちろん語学は個人の努力次第で上達するでしょうが、学習できるものは何も語学だけとは限らないと思います。

今年の8月から1ヵ月間、私はイギリスのニューカッスル大学で夏期英語語学研修に参加しました。この研修で、私は自分を高められたと思います。今回のイギリスでの研修は自分にとって人生で初めての海外経験であったため、ニューカッスル空港に到着後、イギリスの風土、人々、数多くの伝統的な建物、何もかも自分にとってとても新鮮な感じがしました。この後、私は、長年勉強してきた英語を滞在先である寮に向かう途中で初めて使いました。寮が大学からかなり離れているのに気づき、行き方を偶然近くを歩いていた韓国学生に慣れない英語で聞いたのが最初でした。その人の親切な対応により無事に寮に着くことができました。実際、研修は2日後に始まったのですが、私にとってこの時、既に自分自身の語学研修が始まっていたと感じました。この時の出来事は、慣れない英語でも言葉は通じ合うこと、また、見知らぬ土地へ行くときはトラブルにあった場合を考えて、もっと周到に計画を立てておくべきだという教訓を与えてくれました。

2日後に英語のクラス分けのテストがあり、それから授業が開始されました。午前中は必須の英語クラスが2コマあり、午後はオプションでイギリス文化、歴史、社会などバラエティーに富んでいました。私のクラスには日本人の他に韓国人、スペイン人、ドイツ人の研修生がいました。以前から言われているように彼らは授業中、同じレベルとはいえ日本人以上に英語で言うべきことを主張します。私は議論に慣れておらず、また、どの

人も独特の訛りがあったため、最初は授業についていくのにとても苦労しました。

授業以外でも彼らは説得力のある話し方をしました。例えば、私と友達になったドイツ人と夕食をしているとき、私のナイフとフォークの持ち方が間違っているというので1からマナーを教えられました。心の中では日本人という思いが強く、抵抗がありました。ヨーロッパの習慣を押し付けられていると感じながらも頑張っただけでした。

しかし、寮や大学で時間を共にするにしたがって、次第に誰とでも親近感を感じてくるようになりました。ヨーロッパや韓国の人は日本人と違い、誰とでも分け隔てなく親身になって接してくれると感じてきました。私にそういう感覚を持たせてくれたのは授業中だけではありませんでした。インターナショナルイブニングという異文化交流会

では、日本人学生が折り紙の折り方を教えたところ、他国の学生から多くの関心を寄せました。会が終わった後も折り紙の折り方をもっと教えてほしいと頼みに来る人がいたので、その度に親切に分かりやすく教えました。また、週に2、3回私のクラスメートとティン河周辺のディスコやバーに出かけ酒やビールを飲みながら、相手の国の風土や人々に対してどういう印象を持っているのか腹を割って真剣に話したこともありました。お互い完璧な英語ではありませんでしたが、ジェスチャーを交えてコミュニケーションをとりました。みんなで楽しく騒いだり笑ったり、時には苦労したり考えたりする1ヶ月間でした。

研修が終わって数ヶ月たちましたが、今考えてみると最も充実した夏休みに思えます。今では英語に自信が持てて財産のように感じます。また、異文化圏の人と積極的に話し合うことがいかに大切か実感がとても湧きます。それは、お互いの持っているステレオタイプを消し去ることにつながり、本当の付き合いが生まれると思います。ですから海外未経験の人はぜひ、来年の研修に参加して、多くのことを吸収して人生の糧にしてはどうでしょうか？



オハイオ州立大学夏期語学研修に参加して

国際関係学部 国際言語文化学科1年 竹下 真由



長いようで、短かったオハイオ州立大学夏期語学研修の中で、私はとても素晴らしい経験をさせていただきました。それは、一つに、現地でお世話になったアメリカ人の方々のおかげであり、このプログラム担当の先生方、私がこのプログラムに参加する上でお世話になった方々、研修中にお世話になった方々、そして、一緒にこのプログラムに参加した方々のおかげです。私に「週末中、あなたは私達の家族」と言って、温かく迎えてくれたホストファミリーとの週末、政治、環境問題、日本文化等、質の高い話を共に語り合った Conversation Partnerとの時間、オハイオ州立大学での授業、プログラム参加者みんなで行った買い物や市内観光、その他たくさんの人達と共に過ごした時間は、私の英語力、そして人生にとって大きな財産です。

今回の語学研修は、私にとって、驚きがたくさんありました。その中の一つに、ダウンタウンに、ミュージカル「オペラ座の怪人」を見に行った時、観客の服装がまちまちだったということです。会場の内装が中世貴族の館のようだったのですが、それに負けないくらいきらびやかにドレスアップした人もいれば、全くの普段着で来ている人もいたのです。また、ある日、プログラムの一環としてソーシャルワーカーの方にお話を聞く機会があったのですが、その時に、多くの資格が州ごとに定められていることを聞いて驚きました。日本では、あまり考えられない社会の仕組みだと思いました。いずれの出来事にしろ、日本よりも独立の精神が感じられました。また、ホストファミリーに連れてっていただいたアフリカンアメリカン

のみの教会で、賛美歌を歌いながら踊る信者の方々、アフリカの衣装を着た信者の方を見て、私の知らなかった宗教のあり方にもふれました。それまでの自分が描いていた教会のイメージとは違う教会を通して、同じ教えでも、それを信仰する方法が違う事があるのだと知り、私の宗教に対する世界観が少し大きくなった様に感じました。

また、今回の語学研修で、自分の英語力の未熟な点も多々発見しましたが、アメリカ文化の知識に対する未熟さにも多々気付かされました。特に、知識の未熟を感じたのは、ホストファミリーの従姉妹と一緒に映画を見に行った時です。映画自体は、子供から大人まで楽しめるコメディ映画だったので、台詞の意味は分かるのですが、何故周りが笑っているのか分からなかった場面が、数回ありました。そのとき、私は、語学力を伸ばすだけではなく、その国の文化や日常を知ることの尊さを勉強させてもらったと思います。次に、アメリカに行くときに、今回以上の英語力、そして、アメリカに対する知識を身につけることが、私の今の目標です。

最後に、研修中にお世話になった方々にもう一度御礼と、私にオハイオ州立大学夏期語学研修というチャンスを与えて下さった本校に心より感謝申し上げます。



オハイオ州立大学インターンシッププログラムに参加して

国際関係学研究科 修士課程2年 大宅 忍



8月1日から19日までの約三週間、アメリカオハイオ州にあるオハイオ州立大学附属英語機関（ALP、American Language Program）でインターンシップを体験させていただきました。私が参加したプログラムはSLIP（Shizuoka Language-teaching Internship Program）と呼ばれ、研修の内容は、英語を第二言語として学習している学生に英語で授業を行う教育実習です。

SLIPの研修では、最初の二週間は、授業を受けている学生の視点に立ってALPの先生たちの授業を参観しました。最初の数日間にすべてのレベルのクラスの授業を参観し、その後、担当するクラスの授業を集中的に参観しました。そして、最後の週には、実際に授業を行いました。私が担当したクラスはLevel 2で、人数は6名でした。少人数なので、教員が一人一人の生徒に対し、きめ細かな指導ができる学習環境でした。

ここでALPについて少しお話しします。ALPにはLevel 2～Level 4までの3つのクラスがありました。Level 2は中級、Level 3は中級の上、Level 4は上級レベルです。学生は主にアジアからの学生が多かったです。日本からの学生も数名いましたが特に韓国からの学生が一番多かったです。授業は朝8時30分に始まり、午後2時20分に終わります。

SLIPでの三週間の研修は大変充実しており、毎日が有意義で、貴重な経験に満ち溢れていました。例えば、日本の学校での日本人の英語の先生による授業は、教育実習や研修会で参観したことがありますが、アメリカの大学付属の教育機関で行われている第二言語として英語を学習する人たちに対する英語の授業を参観することは初めての経験

でした。異なる習熟度の生徒に対し、どのようなアプローチをALPの先生方がするのかをレベル別に参観したからこそ、私は個々のレベルに対応した教授法を全体像として捉えることが出来たと思います。さらに、研修中は、ALPの先生方だけでなく、ALPの学生たちともいろいろな話が出来たこととはとても良い経験でした。ALPの先生方とは授業のことだけでなく、英語を教授することに対する思いや熱意、時には互いの国の教育システムや文化について、放課後、授業の休み時間、あるいはランチを一緒にとりながらよく話しました。それらの中には、日本の学校の教育実習や教育現場などでは学べないことが数多くありました。特に私のアドバイザー（指導教官）のKathyにはとても感謝しています。

振り返ると、英語で授業をすることは私にとっては初めての経験だったので、最初の授業は不安でした。しかし、周りの先生方の協力やアドバイス、サポートのおかげもあり、納得できる授業ができました。今回のSLIPでの経験から、英語で英語を教えることに自信を持てたことは、私にとってとても大きな進歩です。

今回のインターンシップで得た知識、技術、経験をどのように日本の学校での英語教授の場で活かしていくかが今後の課題です。まずは出来ることから始めていこうと考えています。それは、ALPの先生たちが共通して実施していた3つのこと、「待つこと」「気楽に質問ができる環境を作ること」「英単語の語源を教えること（teach roots of the words）」です。

最後になりましたが、この場をお借りして、このような素晴らしい機会を与えてくださった静岡県立大学の関係者とオハイオ州立大学の関係者の皆様にお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。



本学教員の著書紹介

『脳機能と栄養』 幸書房、2004年3月

食品栄養科学部 教授 横越 英彦

本書は、幾つかの学会の書評で高く評価されており、その一部を引用する。

栄養学と神経科学の境界分野を統合した「栄養神経科学」における初めての手引書であり、脳と食品成分についての関係が極めて丁寧に記載してある。栄養神経科学の祖としてラボアジェを紹介するところから本書はスタートする。第2章では、脳の仕組みとニューロンについての解説が栄養学的観点からふんだんに取り入れつつなされている。第3章では、脳機能を支えている栄養素（炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル）についての最新の記載がある。第4章では、脳機能を反映したいくつかの特徴的な行動様式（食欲調節、学習機能、精神的ストレスなど）に対し栄養素がどのようにかかわっているかが述べられている。第5章では、「脳機能活性で注目される食品成分」についての最新の記載がある。脳科学の限界を見極めながら、正確に科学的事実のみを伝えようとしているところに、執筆陣の非常に真摯な態度が強く感じられる。私の知る限り、栄養神経科学の教科書として、このように内容豊富で、かつ最新の研究データを網羅した本は他にないと思う。「脳にとっての栄養の意味」が、基本から応用まで、そして分子、ニューロン、脳、行動に至るそれぞれのレベルで、深く広く理解することができるであろう。（東京大学大学院新領域創成科学研究科 久恒辰博）（日本栄養・食糧学会誌、一部抜粋）



「どうすれば頭が良くなるか」、「どうすればボケを防止できるか」、「子供の情動をどう理解するか」など日常にも関心を持たれている課題がこの研究分野には多数存在しているのである。本書は、「脳機能」をこのような社会的にも極めて身近な問題としてとらえ、それと栄養や食品とのかわりについて真の情報をもとに解説しようとしている。（東京大学大学院農学生命科学研究科 清水誠）（日本農芸化学会誌、一部抜粋）

はっか 『客家の鉄則』 ゴマブックス、2005年10月

国際関係学部 教授 高木 桂蔵

客家は、漢民族の中の1グループであり、中国全人口のわずか4%を占めるにすぎない“少数派”であるが、常に周辺の多数集団から圧迫されてきた環境にありながら、中国のみならず世界の政治・経済を動かす大人物を数多く輩出していることで知られている。例えば、辛亥革命を指導した孫文や太平天国の乱を指導した洪秀全、さらには、朱子学の創始者である朱子や陽明学の創始者である王陽明などが客家人である。

本書に掲載されていることわざは、その客家の間に長く伝わり、千数百年にわたる経験から生み出されたもので、彼らに多くの勝利と成功をもたらしてきた人生の“鉄則”と言える。

本書は、「仲の鉄則」（人間関係についての教え）、「業の鉄則」（仕事についての教え）、「血の鉄則」（家族・健康についての教え）、「財の鉄則」（金銭についての教え）、「生の鉄則」（人生についての教え）の5部構成となっており、どこから読まれてもよく、必要な時に参考になる言葉が並べられている。その1つひとつに込められた客家の「生き残りの知恵」は、不安と混乱の世相・時代に生きる現在の日本人にとって、大いに役立つものと思われる。



『争覇の流通イノベーション ダイエー・イトーヨーカ堂・セブン イレブン・ ジャパンの比較経営行動分析』慶應義塾大学出版会、2004年10月

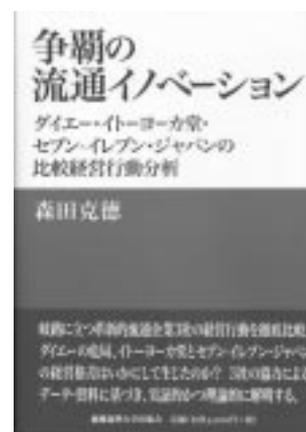
[平成14・15年度文部科学省科学研究費助成(基盤研究C)「争覇の流通革命 革新的経営管理の構図」]

[平成16年度文部科学省科学研究費補助金(研究成果公開促進費)]

経営情報学部 助教授 森田 克徳

本書の目的は、2つある。1つには、1980年代初頭に生じた消費環境の激変および90年代前半のさらなる潮流の変化について、定量的データおよび定性的資料を相互補完して用いることによって明示し、検討することである。いま1つの目的は、70年代以降30年間の長期スパンで、ダイエー、イトーヨーカ堂、セブンイレブン・ジャパンの経営行動に着目し、各社が展開した流通イノベーションの苦闘の経緯を明らかにすることである。80年代初頭の外部環境要因の変化と経営行動では、第1章において「失われた10年」とされる90年代に対比して、「見失われた10年」と指摘できる80年代、ことにその初頭の外部環境要因の変化が顕在化した時期を「第一ボーダー」として示し、なにゆえに消費者が「自ら商品を選択する」ようになったのか、その理由を分析したうえで、ダイエーの「売上至上拡大戦略」その成果およびそののちの影響、イトーヨーカ堂の「利益第一生存主義」と「業革」、セブン イレブン・ジャパンの創業と「効果効率共進主義」について第

部「1990年代前半の外部環境要因の変化と経営行動」では、第1章において「失われた10年」とされる90年代、とりわけ前半から半ばにかけての外部環境要因の変化を「第二ボーダー」として明示のうえ、第部と同様になぜ消費者が「自ら商品を選択する買い手市場」から「自ら情報を選択する買い手市場」、さらに「自ら情報を発信する買い手市場」にシフトしたのか、その理由を検討し、消費選好の「加速度的沸騰 冷却化現象」下、ダイエーの企業買収・合併とエブリデー・ロー・プライス、イトーヨーカ堂の「業革」の再構築、セブン イレブン・ジャパンのロジスティック・マーチャンダイジング・システムについて検討した。終章では、それまで論じてきた1970年代以降2000年にかけてのロングスパンで、まず消費環境の変化を、ついでダイエー、イトーヨーカ堂、セブン イレブン・ジャパンの業績を俯瞰する。そして求められる「製品力・商品力・販売力モデル」を析出し、さらに機会損失による「粗利ロス」および廃棄損失ないし値下げによる「処分ロス」について再考のうえイトーヨーカ堂とセブン イレブン・ジャパンの差異を論考した。



教員の人事

採用

(10月1日付け)

羽田野花美 看護学部講師

(11月1日付け)

豊岡 達士 環境科学研究所助手

(12月1日付け)

松本 敦則 経営情報学部助手

退職

(9月30日付)

堀内 義秀 経営情報学部教授



国際関係学部・国際関係学研究科の動き

国際関係学部長 稲田 晴年
国際関係学研究科長 榊 正子

国際関係学部が発足して19年が経とうとしている。大学や学部の評価はおおむね、教育・研究の水準と、卒業生がどのような分野で活躍しているかによって決まる。そのため本学部では、今年度も語学教育をさらに充実し、同時に就職支援の強化も行った。

1 オープンキャンパス

8月1日(月)の13時半より実施した今年のオープンキャンパスは、811名の参加者を集め、昨年より110名多かった。6つの模擬授業と、コース別懇談会(学部からは教員と在学生在が参加)を行った。参加者の希望を満たすため、例年、同じ模擬授業を2回ずつ行っているが、参加者の飛躍的増加に伴い、今後は3回に増やすことも検討すべきかもしれない。また、コース別懇談会には在校生が参加し、学部生の生の声が聞けるため、参加者には好評であった。



模擬授業



コース別懇談会

2 TOEIC講座

現在ではTOEICの成績がよければ、就職試験でも強力なセールスポイントになる。そのため、本学部では数年前からTOEIC準備講座を開き、多くの学生を集めている。今年からは講座を、学生が比較的受講しやすい火・木・金曜日の5時限に設定したため、受講生が増えた。前期は7月22日まで10週間実施し、受講生は259人、クラス数は11であった。

3 夏期語学研修

英語については、米国オハイオ州立大学と英国ニューカッスル大学で行ったが、オハイオ州立大学の研修には13名が参加し、ニューカッスル大学は11名であった。中国浙江大学の中国語研修には8名が参加し、8月27日に無事終了した。

また、大学院でも、語学教育インターンシップをオハイオ州立大学で行った。これは英語教師養成のためのプログラムで、アメリカで英語の教育実習を行うものである。社会人(英語教員)学生1名が参加、無事終了した。本研究科教員がオハイオ州立大学で訪問指導も行った。

4 リール政治学院との交換留学

本年度はフランスのリール政治学院との間で大学間協定が締結され、この協定に基づき、国際関係学部3年生2名が初の交換留学生として、後期からリールに留学した。この交換留学制度を使えば、本学に在学したまま留学し、休学期間がないため4年間で卒業することができる。こうした留学制度を作って欲しいという学生の声は従来から多く聞かれたが、今年度、初めて実現することとなった。ただし、今年度はリール政治学院から本学に留学する学生がいなかったため、本来の意味での「交換留学」とはいいがたいのが現状である。今後

は、リール政治学院の学生にとって魅力的な提携校となるために、企業や役所での留学生向けインターンシップを用意するなど、誘致策を考える必要があるだろう。

ちなみに、今年4月現在で外国に留学している学生数は15名であり、全休学者21名の70%強にあたる。今後もさまざまな形で学生の海外留学を支援していきたい。



リール政治学院との交換留学生

5 就職支援

本学部学生の卒業後の進路は多岐にわたるため、学生自身が選択に迷うことも多い。そこで、学生の進路選択を助け、就職支援をするため、今年度も多くのキャリア形成講座を企画した。たとえば、「ODAにおけるキャリア形成」(6月21日実施)や、「NGOで働くには」(7月5日実施)などであり、本学部学生の関心を考慮した企画を組んだ。

6 同窓会

就職活動の一環としても、卒業生と在学生の情報交換は重要である。そのため、剣祭の行われた10月29日(土)に国際関係学部同窓会が主催して、卒業生と在学生が触れあえる機会を設けた。午後1時半から、パーラー風にレイアウトした教室で卒業生と在学生が交歓し、卒業生は在学生のために有益な情報を提供してくれた。当日参加できずにメッセージを寄せてくれた卒業生の葉書が壁に張り出され、在学生も熱心に読んでいた。また、夕方からは近くの和風レストランに場所を変

え、30人ほどで交流を続けた。昨年からはじめた試みだが、今後も続けていく予定であり、卒業生にとっても魅力のある学部にしていきたい。



国関同窓会(剣祭にて)

7 学生への広報体制の整備

学生に通知したい情報を、学部・研究科ウェブサイト電子掲示板に簡単に書き込める体制を4月に整えた。ただし、このシステムの利用は委員会単位であり、教員単位では行わないこととした。

8 入試体制の検討

学部の入試科目は午前も午後も英語(午前は文法、午後は長文要約)であるが、他の科目の可能性も検討すべきではないかとの意見があったため、入試改革委員会を設置した。また、研究科でも、定員増を前提に、今後どのような学生をどのような方法で入学させるかを再検討することとなった。

9 9月卒業

4月段階で8名の学生が9月卒業を申請し、5名が実際に卒業した。この制度を使う学生が増えている。9月卒業生のなかには、就職先の決まっていない者もいるが、今後就職形態が多様化して、4月以外への入社が広まれば、9月卒業者がさらに増えることも考えられる。学部としても社会の変化に対応する必要があるだろう。

経営情報学部動き

経営情報学部長 勝矢 光昭

学生による学部評価

経営情報学部では学部活動の有効性を常に注意深く見守ってきている。たとえば、自分達が提供するカリキュラムや授業のやり方、卒業論文制度等を学生達がどのように評価しているか客観的にチェックする必要があるという判断で、平成9年度より、すべての学生を対象とした同一フォーマットによる学部評価アンケートを実施し、継続的なデータを蓄積し続けている。アンケート調査項目は教育に関するものが7つ（うち一つは総合評価）、施設・サービスに関するものが8つ（うち一つは総合評価）、その他学生生活や卒業後の進路・就職先への満足度等多岐に及んでいる。それぞれの問いに対して、満足している場合を1点、不満足な場合を5点とし、どちらとも言えない場合の3点を挟んで満足度が高いほど点数が低いようになっている。アンケートは卒業生には卒業式の直後（在学生には前期の最初の週）に実施している。表-1は今年度実施したアンケート結果である。

多くの大学が卒業論文制度を廃止したり、あるいは軽視したりしている中で、本学部は逆に卒業研究論文制度を堅持し、その充実に本学部の教育目的の達成を賭けている。アンケート結果からは、この私たちの努力を学生たちは卒業時に高い満足度で応えてくれていることが読み取れる。同時に卒業後の進路・就職先に対しても高い満足度を示してくれている。

しかし高学年になれば解消されるとはいえ、教員と学生の交流や教員の個別的指導の項目には低学年時に欲求不満ともいえる不満足度が見受けられる。これに気付いて平成15年度より、ゼミ形式の少人数編成による基礎演習を学部1・2年生に配置し、改善を図っているところである。

表-1 学生による学部評価アンケート結果

| 学生の学部評価 平成17年3月・4月実施 | 2年 (79) | 3年 (48) | 4年 (53) | 卒年 (64) | 全体 (244) |
|-------------------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| A. 本学の教育について | | | | | |
| A1. 専門教育科目のメニュー | 2.75 | 2.49 | 2.40 | 2.32 | 2.51 |
| A2. 全学共通科目のメニュー | 2.67 | 2.64 | 2.45 | 2.23 | 2.50 |
| A3. 専門教育科目授業から得られたこと | 2.58 | 2.49 | 2.36 | 2.31 | 2.44 |
| A4. 専門教育科目授業での教え方 | 2.81 | 2.51 | 2.62 | 2.52 | 2.63 |
| A5. 教員の個別的指導 | 3.17 | 2.81 | 2.60 | 2.34 | 2.76 |
| A6. 卒論・卒論ゼミ | - | - | | 1.97 | 1.97 |
| A0. 以上を含め本学の教育全般を総合して | 2.74 | 2.63 | 2.31 | 2.31 | 2.51 |
| B. 本学の施設とサービスについて | | | | | |
| B1. 図書館 | 2.18 | 2.19 | 2.60 | 2.39 | 2.33 |
| B2. コンピュータ設備 | 2.14 | 2.11 | 2.02 | 2.22 | 2.13 |
| B3. 体育・運動施設 | 2.58 | 2.51 | 2.60 | 2.75 | 2.61 |
| B4. 食堂・売店 | 2.87 | 3.09 | 3.06 | 3.55 | 3.13 |
| B5. 事務局サービス | 2.99 | 2.91 | 2.62 | 3.59 | 3.05 |
| B6. 自習の場所 | 2.86 | 2.83 | 2.37 | 3.16 | 2.82 |
| B7. 交流、課外活動の場所 | 2.96 | 2.77 | 2.94 | 2.94 | 2.91 |
| B0. 以上を含め施設とサービスを総合して | 2.72 | 2.66 | 2.63 | 2.95 | 2.75 |
| C. その他 | | | | | |
| C1. 学部教員の研究者としての活動 | 2.73 | 2.72 | 2.42 | 2.48 | 2.60 |
| C2. 大学に対する地域や周囲の評価 | 2.67 | 2.53 | 2.15 | 2.11 | 2.38 |
| C3. 教員と学生との交流 | 3.15 | 3.00 | 2.67 | 2.59 | 2.87 |
| C4. 学生同士の交流 | 2.42 | 2.53 | 2.31 | 2.17 | 2.35 |
| C5. アルバイトや課外活動の経験 | 2.39 | 2.38 | 1.94 | 1.95 | 2.18 |
| D. 卒業後の進路・就職先への満足度 | - | - | - | 1.73 | 1.73 |

点数が低いほど満足度が高い。

経営情報学研究科の動き

経営情報学研究科長 渡部 和雄

1 入試一次募集の状況

9月28日、29日に入試の一次募集を実施した。大学院は昼夜・土曜日開講制をとっており、授業やゼミは平日14:40~21:40、土曜日9:20~16:40に開かれる。そのため、仕事を持つ社会人も働きながら大学院に通うことができる。また、日本での実務経験を3年以上有する人は社会人特別入試を受けることができるなどの措置により、昨年度から社会人の受験者が大幅に増加した。

| 募集定員 | 出願者 | 受験者 | 合格者 |
|--------|-----|-----|-----|
| 10名 | 20名 | 19名 | 11名 |
| (うち社会人 | 12名 | 11名 | 7名) |

平成18年3月に二次募集が行われる予定である。なお、経営情報学部を卒業見込みの人は一次募集で推薦特別選抜を受けられるので、現在の3年生は来年に挑戦して欲しい。

2 今年度から通常の授業で初めて遠隔講義を実施

経営情報学研究科でシステム設計を行った遠隔講義システムを利用して、主に県東部の社会人学生のために谷田キャンパスと沼津エクステンションセンター（沼津市）を結んだ遠隔講義を実施した（前期2科目各15回）。後期は静岡市産学交流センター（通称B-nest）と沼津エクステンションセンターを結んで実施している（2科目）。いずれも沼津側では社会人1~2名が遠隔で受講し、職場や住居の近くで受講できると評価されている。



遠隔講義システムを利用した大学院授業の様子

3 大学院ビジネス講座や公開講座で遠隔講義を実施

一般社会人向けに経営や情報関係の大学院レベルの講座を提供している「静岡県立大学大学院ビジネス講座」では、前期はB-nestと沼津エクステンションセンターを結んで遠隔講義を実施した。後期は静岡文化芸術大学（浜松市）と沼津エクステンションセンターを結んで遠隔講義を実施している。

また、公開講座における経営情報学部担当分「地域活性化と街づくり」（4回）では静岡文化芸術大学をメイン会場として、B-nestと結んでいる。



遠隔講義システムを利用した公開講座の様子

4 今年度から一部講義をB-nestで開講

社会人学生や社会人聴講生のために、今年度から大学院の一部の講義（今年度は2科目）をB-nestで実施している。静岡市中心部での夜間の授業は、特に仕事を持つ社会人が仕事帰りに通えるので、好評である。

5 単位互換制度の発足

今年度、静岡大学人文社会科学部研究科経済専攻との単位互換制度が発足した。今年度は本学から2名、静岡大学からのべ5名が相手大学院の科目を受講している。

6 地域経営研究センター関係

外部評価委員によるガバナンス会議を実施し、センターの運営について多くのコメントをいただいた。教育面では、今年度は大学院ビジネス講座、非営利組織マネジメント講座（NPO講座）などの社会人向け講座を12科目開講する。研究面では産業集積地の調査などを行っている。

看護学部・看護学研究科の動き

看護学部長 小寺 栄子
看護学研究科長 佐藤 登美

我国の看護教育の大学化のラッシュが始まるうとしていた平成9年に誕生した本学部は、平成18年度に開学部10周年を迎える。この間5期生284名の卒業生が、看護師・保健師・助産師として県内外の病院・保健所・保健センター等に巣立っている。また平成13年には、大学院看護学研究科修士課程が設置され、看護学を体系的に学び、発展させていく教育研究体制が整い、既に3期生22名の修了生を輩出している。しかし、全国的に看護の大学課程が127校、修士課程73課程、博士課程28課程となり、また全学的な独立法人化と大学改革の動きの中で、看護学部そして研究科の地域における役割を問い直し、特色ある教育・研究体制を備えた存在価値のある学部にしていく智慧がいま求められている。

1 学生の状況

学部の在籍学生数は、1年生54名、2年生68名、3年生63名（編入生5名含む）、4年生68名（編入生5名含む）の計253名であり、研究科は1年11名、2年8名の計19名が在籍中である。平成17年春の国家試験合格率は、看護師が100%（46名）、保健師が88.2%（45名）、助産師が100%（9名）であった。就職状況としては卒業生51名中、病院に看護師あるいは助産師として就職した人が47名、県や市町村の保健師として就職した人が3名で、就職率は100%である。新入生の状況としては、社会人選抜（1年次に入学）では、若干名の募集に対して1.1倍の志願者、また編入学試験では、応募者5名に対して9.2倍の志願者があり、社会人選抜に於いては、他大学あるいは短期大学卒業生が多くを占めていた。なお、平成17年度の編入学試験より、臨床現場や地域の大学編入へのニーズが高いことを考慮し、定員を10名に変更し入試を実施した。入学者の出身地は静岡県内が83%を占め、地域に密着した学部と云える。

2 学生の学習支援体制の強化

地域の高校生に看護学部をより深く理解してもらうために、高大連携による出張授業への積極的な参加、オープンキャンパスの開催、高校生の学



オープンキャンパス：530名の高校生が熱心に参加



オープンキャンパス：在学生による心肺蘇生の実演

部訪問を実施している。オープンキャンパスでは県内外の高校生530名が参加し、看護学部の施設設備の見学、模擬授業、在学生との交流、教員の個別相談に参加した。また高校の進路指導の先生方にも、看護学部の求める人材や教育の特徴、入試体制についての理解を深めてもらう目的で、教員との懇談会を計画した。

学生の学習支援としては、新入生同士あるいは教員との交流を深め、早く大学生活に適應してもらう目的で、後援会の助成を受けて、三保園ホテルで1泊2日の新入生歓迎オリエンテーション合宿を実施した。また1年次の後期あるいは2年次にかけて、入学時のイメージと実際の学生生活のギャップを感じ、看護学を学ぶことについて悩み、

自分の将来を改めて模索する中で、多くの心理的葛藤を抱え、学習への意欲を失ってしまう学生も少なくない。そこで今年度より、1年生と2年生を対象に「看護を学ぶことについて語り合う交流会」を設け、上級生・教員との交流を図る中で自分を振り返り、看護学を学ぶ意味について考える機会を設けた。また3年生に対しては後期より臨床実習が断続的に続く中での学生個々の課題の解決を図るために、「臨地実習中間まとめの会」を開催し、今後の実習に取り組むうえでの動機付けの機会とした。また3・4年生に対しては、就職支援の一環として、5名の卒業生による講演会を実施し、4年生後期の過ごし方や、就職活動、就職して半年を経た現在の状況などについて語ってもらった。

3 研究・教育体制の見直し

個人あるいは部内の共同研究の推進と重点事業策定の目的で、教育・研究予算委員会を設置し、公平・透明性のある研究費の配分を行った。また委員会活動経費の充実、学部環境改善そして基盤整備のための基礎的データを得るために5つのプロジェクトを立ち上げ、学部/研究科の協力体制のもとで実施している：

大学院生対策：院生研究室におけるコンピュータ設備のパワーアップ

大学改革：「今、求められる看護職の新たなチャレンジ」講演会、シンポジウムの開催

学部入試改革：「看護学部の入試改革案策定のための基礎的研究」進路指導者との懇談会、他校の取組調査の実施

大学院入試改革：「本学部卒業生のキャリアディベロップメントに関する意識および大学院教育へのニーズに関する研究」アンケート調査の実施
法人化対策：「地域の健康文化の育成に寄与する看護職のエンパワーメントに向けての静岡県立大学看護学部の役割と課題」グループインタビューとアンケート調査の実施

また過去2年間にわたり学部/研究科のカリキュラムの充実と改正に向けて検討してきたが、次年度以降の組織変更の動向を見据えながら更に検討を加え、学部・研究科とも抜本的なカリキュラム改革に踏み切る予定である。

4 平成17年4月以降の看護学研究科の動き

平成16年4月にカリキュラムの再編(6専門分野)を行ったが、18年度はさらに精神看護学領域を加え7分野として開講する予定である。また静岡県がんセンターとの連携大学院協定による

教育・研究活動では、1)「がん患者の退院後の生活支援に関する研究」、2)「入院患者における動物介在の効果に関する研究」、3)「終末期がん患者の褥瘡発生の実態と要因に関する研究」の共同研究に取り組み、また専門科目の「応用実習」等で、がんセンターでの実習や研修を実施している。

今年度より受験生確保と広報活動をかねて、大学院看護学研究科セミナー「この時代に“学ぶ”ということ - 生涯を通して学ぶ看護 -」を6月に開催し盛況であり、引き続き第2回目を12月に開催した。また将来的にみて需要が高い看護専門分野の新設、専門看護師課程の検討や、平成19年4月開設を目途に博士課程の設置の検討を進めている。特に、博士課程の設置と修士課程の充実、今後の静岡県の看護のあり方と新しい実践方法を方向づける上で重要な課題だと考える。また「実践科学」という脚点から、臨床の場の応用に耐えられる研究成果の発信と、これまで不十分だった広報活動、産学連携、臨床との連携を広角的に推進していこうと考えている。



大学院看護学研究科セミナー

5 社会貢献活動の推進

看護学部主催の公開セミナーの開催、その他、特別講演、特別講義の実施、各看護専門領域の抄読会、事例検討会、勉強会の開催を通し、県民並びに地域の保健医療従事者と連携しながら地域の健康支援に向けての活動を行っている。また学生のボランティア活動グループ「防'z」は地域住民の地域防災活動への支援を行っている。また学部の助手により編成されている「健康増進研究会-Fit Nurse-」は、外部団体からの助成を受け、骨密度測定イベントを開催し、地域に根ざした活動を続けている。

研究助成採択

財団法人 薬学研究奨励財団 25周年記念特別研究助成

研究者：薬学部 微生物学教室 助教授 川島 博人

研究課題：新規ムチン型糖鎖分析技術の開発とIgA腎症早期発見への応用

平成17年度 金原一郎記念医学医療振興財団 第20回基礎医学医療研究助成金

研究者：薬学部 臨床薬品学教室 講師 五十里 彰

研究課題：腎尿細管におけるマグネシウム再吸収に対する免疫抑制剤の影響

平成17年度 財団法人 漢方医薬研究振興財団 一般研究助成A研究助成

研究代表者：薬学部 薬剤学教室 助手 隠岐 知美

研究課題：メディカルハーブ、ノコギリヤシ果実抽出液の排尿障害改善作用および臨床薬との併用効果に関する研究

平成17年度 財団法人 黒住医学研究振興財団 第13回研究助成金

研究者：薬学部 生化学教室 助手 左 一八

研究課題：表面プラズモン共鳴センサーを用いたインフルエンザウイルスのパンデミック株リスク評価法の確立

科学研究費補助金 平成17年度に新規追加採択された研究課題及び研究者

基盤研究(C)

| | | |
|------|---------|--------------------------------------|
| 伊藤邦彦 | 薬学部 教授 | 癌関連抗原CD98を分子標的とした新規癌治療薬の開発と臨床応用 |
| 石川智久 | 薬学部 助教授 | 高濃度グルコース曝露に対する膵細胞の応答反応におけるTRPチャネルの役割 |
| 原田 均 | 薬学部 講師 | 脾臓におけるP2X7受容体活性の制御による細胞死の調整 |

受賞・選出

平成17年度

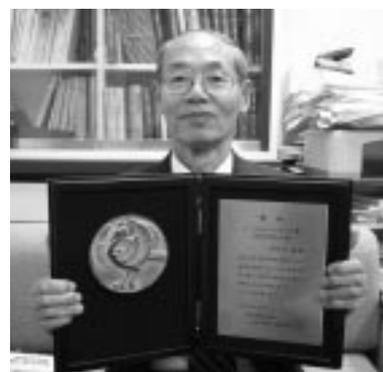
栄養関係功労者を表彰



去る9月27日、徳島大学において平成17年度栄養関係功労者の厚生労働大臣表彰式が行われ、食品栄養科学部の伊勢村護教授は栄養士養成功労者として表彰されました。

伊勢村護 教授

栄養関係功労者の厚生労働大臣表彰は、昭和51年から毎年実施され、栄養改善事業功労者、栄養士養成功労者、栄養指導業務功労者、特定給食施設、栄養改善事業功労者、地区組織、調理師制度功労者、調理師養成功労者、調理業務功労者の区分に従い、表彰が行われるものです。



世界緑茶協会 O-CHAパイオニア賞学術研究大賞を受賞

食品栄養科学部の伊勢村護教授は、世界緑茶協会の本年度のO-CHAパイオニア賞学術研究大賞を受賞しました。同賞は、茶に関する優秀な学術研究、茶の振興に寄与した産業技術、茶の消費拡大への取り組み等を行った個人・団体が対象であり、同教授は、緑茶効能発現の分子基盤の研究で業績を挙げ、茶に関する優秀な学術研究として評価されました。



平成17年度 日本栄養・食糧学会賞を受賞

食品栄養科学部栄養化学研究室の横越英彦教授は、平成17年5月12日～15日に東京農業大学で開催された第59回日本栄養・食糧学会大会において名誉ある学会賞を受賞しました。受賞の対象となった研究は、「栄養と脳機能に関する基礎研究」です。本研究は、高ストレス社会、超高齢化社会を迎えている今日、栄養学の中で「人間らしい健康長寿」を願うとき、特に大きく貢献する研究分野としての栄養神経科学の重要性を指摘したことで

高く評価されました。栄養条件、食品成分、ストレス、ある種の病態時での脳内のタンパク質やアミノ酸の代謝（特に、脳内神経伝達物質の代謝及び放出制御）が比較的容易に変動すること、また、それに起因する各種の行動（食欲、記憶・学習行動）や精神活動への影響などを詳細に実証したことが評価されたものです。



平成17年度 日本植物学会賞特別賞を受賞

大学院生活健康科学研究科の丹羽康夫博士は、平成17年度社団法人日本植物学会賞特別賞を受賞しました。受賞の対象は、「植物分子生物学における緑色蛍光タンパク質の開発・普及に対して」です。平成17年9月20日から23日に富山大学で開催された日本植物学会第69回大会にて授賞式が行われました。

丹羽 康夫 学内講師

日本植物学会は明治15（1882）年に創立され、「特別賞」は植物科学や日本植物学会の発展に対して様々な方面から貢献した者に授与されます。受賞対象となった緑色蛍光タンパク質は、関連論文の被引用件数がすでに800件を超えており、植物学の基礎研究からバイオテクノロジー分野まで広く利用されています。



日本薬学会環境・衛生部会 フォーラム2005 実行委員長賞を受賞

平成17年10月27～28日に徳島県で開催された日本薬学会環境・衛生部会主催のフォーラム2005：衛生薬学・環境トキシコロジーで福家さゆり（薬学部医薬生命化学教室修士1年）さんが実行委員長賞を受賞しました。これは、優れた講演要旨を提出した大学院生に授与されるもので、受賞した講演題目は「海馬苔状線維ならびにシャーファー側枝の開口放出に対する垂鉛の作用」でした。



ストックホルム犯罪学賞の審査員に選出

国際関係学部の津富宏助教授が、このたび、スウェーデン政府が犯罪学におけるノーベル賞を目指して創設したストックホルム犯罪学賞（<http://www.criminologyprize.com/extra/pod/>）の審査員に選ばれました。この賞は、犯罪学の研究や研究成果の応用に功績のあった、研究者や実務家に与えられる国際的な賞です。授賞は、年に1回で、受賞者には、100万スウェーデンクローネ（日本円にしておよそ1,500万円）が与えられる予定です。

第1回の授賞式は、ストックホルム市庁舎の、ノーベル賞授賞式が行われる部屋と同じ部屋で、2006年6月16日に行われる予定です。あわせて、ストックホルム大学において、犯罪学に関する国際セミナーも開かれます。

受賞者の選定は、11人の審査員からなる国際的な審査員団によって行われますが、同助教授はアジアからただ1人、この審査員に選ばれました。審査員団は、推薦を受けた研究者や実務家の中から、受賞者を選ぶことになります。



図書館だより

シリーズ 『私の1冊の本』

図書館では、利用者への読書推進の一環として、先生方が読んで、感動し心に残った本を紹介しています。

加治 和彦 生活健康科学研究科・食品栄養科学部
教授

紹介図書名：ウェクスラー家の選択 (Mapping fate)

遺伝子診断と向きあった家族

著者名：アリス ウェクスラー (Alice Wexler)
武藤 香織 他訳

出版社名：新潮社

ISBN：4-10-543401-2

図書館所蔵：2階閲覧室 493.74 / W 64

ハンチントン舞蹈病は脳神経系を犯し死に至らしめる遺伝性の疾患である。多くは50代後半に発病するため、その遺伝子を有していても子孫を残す時間がある。母親がハンチントン病を発症した時、30代の女医のナンシーは姉(本書の著者)と相談し子供を産まないことにした。彼女らがハンチントン病の遺伝子を母から受け継いだ可能性は各々50%である。彼女らは例えば料理中に卵をフライパンから誤って落としたり、ハンチントン病の始まりではないかと恐れおののいた。そのような死の影を恐れる日々が重なった後、ナンシーは自分達を苦しめる運命に立ち向かった。この遺伝病が猖獗を極めるベネズエラの寒村で血液を採取し、ハンチントン病の遺伝子が第4染色体短腕にあることを遂に特定した(遺伝子の狩人、ピショップ、化学同人、原著、1990)。

しかし、真の苦しみはここから始まった。未来

を見通せる水晶玉を手に入れてしまったのである。姉妹は遺伝子診断を受け、自分がその病気の遺伝子を持っているのか否かを知るべきか。著者と妹のナンシー、それと父親の心の葛藤を綴ったのが本書である。同じような立場の人たちのある者は遺伝子診断を受け、あるいは受けなかった。父親はその診断が確かではないとの理由から診断に反対した。結局・・・彼女たちは遺伝子診断を受けなかった。我々は様々なリスク遺伝子(高血圧、糖尿病、大腸癌等々)を生まれながらに持っている。これをいち早く知るにより、病気を予知し対処することができる(予知医学)。しかしそれが致死性の病を引き起こす遺伝子である場合は、それを知ることがその人にとって望ましいことであろうか。諸君ならばどうするか?

遺伝子がかれば、次にその働きを明らかにすることができる。運命の正体が明らかになれば対処する手だても可能になる。実はそのためにこそ遺伝子を追いかけたのである。特にハンチントン病のように成人後期に発症する病気であれば、十分な時間もあり食品等で予防することも可能であろう。本書の出版からほぼ10年経った2004年にその手だてが見つかった。発病を抑える魔法の物質は、大福餅や生八つ橋などに添加されている、2糖類トレハロース(Nature medicine, 10,148-154, Tanaka, M.等)であった!この吉報を本書の著者とナンシーはどのような感慨を持って聴いたであろうか。

本書は問う「君たちは遺伝子に - 予知医学に - どのように立ち向かうのか」。

湯瀬 裕昭 経営情報学部 助教授

紹介図書名： マイ・コンピュータをつくる

著者名： 安田 寿明 著

出版社名： 講談社

ISBN： 4-06-117928-4

図書館所蔵： 「マイ・コンピュータ入門」

2階閲覧室 ブルー/313

本書を「私の1冊の本」として紹介すべきかを随分迷ったが、私の進むべき方向を変えるきっかけになった本なので、ここであえて紹介させていただく。

本書は、マイコンの基礎からマイコンの作り方、各種マイコンの紹介について書かれている。「パソコン」という単語を良く聞くとと思うが、学生諸君らは「マイコン」という単語を聞き覚えがないと思う。「マイコン」とは「マイクロ・コンピュータ」を略した言葉である。著者の安田寿明氏は「マイコン」という言葉から更に「マイ・コンピュータ」の略称であると意味づけ、本書のタイトルや本文中で「マイコン」の代わりに「マイ・コンピュータ」という言葉を使っている。本書は、日本でマイコンが普及し始めた1970年代後半に出版された。

当時、私は中学生だったが、本書を読んで、初めて個人でもマイコンと呼ばれるコンピュータを作れることを知った。マイコンは今のパソコンに比べると非常に貧弱な性能のコンピュータであったが、個人がコンピュータを所有できるとは夢にも思っていなかった時代に、コンピュータを自作し、個人で使うことができるということは衝撃的であった。私は将来、ロケットのエンジニアになりたいと思っていたが、本書を読んだことがきっかけで、コンピュータに興味を持ち、現在、コンピュータの研究者としての道を歩んでいる。本書に出会わなければ、ロケット工学の道に進んでいたかもしれない。

20年ぶりくらいに本書を読み直して、本書はコンピュータの基本原理を、マイコンの実例を通して学ぶのに適した本であることに気づいた。また、当時のマイコンの技術進歩とその普及の息吹を感じることができた。本書は絶版になっており、残念ながら本学の図書館には収蔵されていない。本書の前作となる「マイ・コンピュータ入門」が本学図書館2階の学生文庫（ブルー/313）にあるので、本書の代わりに同書をパソコンの温故知新として読んでみるのも良いと思う。

本学教員からの著書寄贈

先生方から著書を寄贈していただきました。（平成17年10月以降）

図書館自由閲覧室の教員著作コーナーに配架して利用に供しています。

菅 敏幸 教授（薬学部）

「演習で学ぶ有機反応機構：大学院入試から最先端まで」 化学同人 2005年

有泉 学宙 教授（国際関係学部）

「アーサー・ミラー（世界の作家：人と文学）」 勉誠出版 2005年

津富 宏 助教授（国際関係学部）

「少年法の課題と展望 第1巻」 成文堂 2005年



こんなテーマについて書かれた論文を探したい！
あの会社についての新聞記事を探したい！

こんなときは文献検索データベースの出番です

～ 学術情報は図書館ホームページから～

県立大学には、学術情報を探すための文献検索データベースがたくさんあります。

「あるテーマについて書かれた論文にはどのようなものがあるか」または「ある著者が書いた論文を網羅的に集めたい」というときにぜひご活用ください。ここでは、探したい内容別に簡単に紹介します。

国内の雑誌記事・論文を探す

CiNii、雑誌記事索引（国立国会図書館）、*MAGAZINEPLUSを使います。いずれも収録分野は全般です。

海外の雑誌記事・論文を探す

全分野を網羅したものではingenta、SCOPUS、EBSCO-host、自然科学系であれば、*Web of Science、*SciFinder Scholar、pub-Med、*MEDLINE等があります。

新聞記事を探す

*聞蔵、*日経テレコンがあります。いずれも図書館内の指定パソコンからの利用になります。最新ニュースは「情報リンク」をご活用ください。各新聞社のホームページにリンクしています。

図書館ではより多くの方々にデータベースを利用していただきたいという願いを込めて、文献検索・収集のための講習会を6月と10月に実施しました。参加者はまだまだ少ないですが、参加していただいた方からは、「これからは自分で使ってみます」といううれしい声が届きました。今後もより一層充実した内容の講習会を実施できるよう努めていきます。

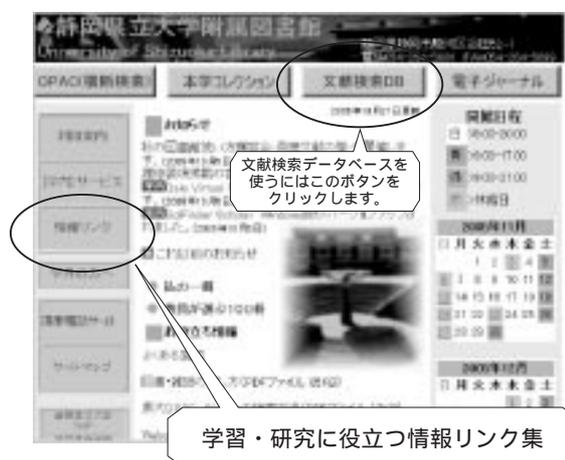


文献検索 講習会

図書館では、「使い方がわからない」「どうやって論文を入手したらいいか」等のご相談に随時応じています。お気軽に図書館（TEL 054-264-5801）までお問い合わせください。

*は同時アクセス数に制限のあるものです。

国内・海外文献を含めたデータベース
の分野ごとになっています。



【図書館ホームページ】



【文献検索DBタブ】

国際交流協定大学から短期交換留学生在が来学

県立大学と学术交流協定を結んでいるフィリピン大学及びモスクワ国立国際関係大学（MGIMO）から短期交換留学生在が来学されました。

まず、10月にフィリピン大学から同大学社会科学・哲学部3年生のエグナー・リンディロウさんが平成18年3月までの予定で来学されました。フィリピン大学では、言語学を専攻しており、日本語のみならずアジアの諸言語に関心をもっているとのこと。本学では、国際関係学部の小幡教授の指導を受けながら、日本語や日本文化のほかアジア事情や国際行動学を勉強しています。好奇心旺盛なとても明るく快活な女性です。



続いて12月には、MGIMOから同大学国際ジャーナリズム学部5年生のマカーロヴァ・エヴゲーニヤさんと同大学国際関係学部4年生のキレーエヴァ・ヴァレンチナさんの2名が平成18年2月までの予定で来学されました。エヴゲーニヤさんは、ジャーナリズムに関する勉強をする傍らマスコミでアルバイトをしているそうで、大学では、ロシアでも人気の高い「村上春樹」をテーマに発表を行ったこともあるそうです。一方、ヴァレンチナさんは、外国語を習うのが趣味とこのことで、英語、フランス語、ドイツ語、韓国語、日本語といった多数の言語に興味をもっているそうです。両名とも本学では、国際関係学部の島田助教授の指導を受けながら、日本語や日本文化を中心に勉強する予定です。



今回、来学された3名の留学生の方が、短い期間ではありますが、県立大学で多くの思い出と友人を得て帰国されることを祈っています。

第6回創星会開催される！

食品栄養科学部助手 兼 創星会会長 増田 修一

11月5日（土）、静岡市のクーポール会館において、第6回創星会総会及び懇親会が開催されました。この創星会は食品栄養科学部及び大学院生活健康科学研究科食品栄養科学専攻の同窓会として発足し、これまで二年毎に開催されております。今回は、本学第2代学長で、初代学部長であった星猛先生をはじめ、ご退官されました先生方を含む多くの教職員、学部卒業生、修士・博士修了生が参加され、大学生活時代の思い出話に花を咲かせ、旧交を温めることができました。

また、来年度は本学が開学20周年を迎えることから、創星会としては記念イベントや記念誌の発行等に積極的に参加したいと考えております。



「しずおか新産業技術フェア2005」で 産学連携をPR!

県内の中小企業が新製品・新技術を持ち寄り、新たな販路や提携先を開拓するためのイベント「しずおか新産業技術フェア2005」が9月15



日から17日までの3日間、ツインメッセ静岡で開催されました。フェアのオープニングには、石川知事等とともに西垣学長も

参加し、華やかにスタートしました。中小企業関係者や一般県民、マスコミ等3日間で8,970人が来場し、新製品・新技術のPR・商談が行なわれました。

当フェアには、IT、医療・健康、福祉・介護、防災、ロボット等の最先端の技術自慢の中小企業

の他、産学連携コーナーとして県内の大学の展示ゾーンなど、併せて157ブースが設置され、本学も静岡大学、静岡文化芸術大学、東海大学等とともに来場者へ産学連携のPRを行いました。

会場レイアウトの関係で、展示コーナーは人の流れからやや外れた場所であったにもかかわらず、研究成果であるギャバ入りのチョコレート



の試食や産学連携の報道記事スクラップ集の配布、本学発のベンチャー企業製品の紹介などを行いました。産学連携推進委員15名の運営参加により、中小企業から一般の来場者にまで、県立大学の産学連携の取り組みが広くアピールできたことをご報告するとともに感謝申し上げます。

日清製粉グループによる 寄附講座設置と共同研究の開始

10月1日に本学の生活健康科学研究科に日清製粉グループによる寄附講座が設置されました。



講座名は「日清製粉グループ高次機能性食品探索講座」と命名され、本年10月から平成22年9月までの5年間にわたり、食品

に含まれる機能成分の探索を行い、抗ストレス・抗疲労、食品機能成分の新たな抽出方法、粘膜免疫の強化、生活習慣病の予防等の機能を持つ「高次機能性食品」を研究します。

研究体制としては、今年度中は、木苗直秀教授をコーディネーターとした本学の研究者と日清グループの研究部門を担う日清ファルマ(株)の研究者の間でセミナー・研究会の開催、予備実験を行い、来年度から専任の研究者4名を新たに雇用し、本格的な研究を実施します。また、日清製粉グルー



プからは2名程度の研究員が本学へ派遣される予定です。

なお、日清製粉グルー

プからは、講座運営に要する経費1億2,500万円と共同研究に要する経費8,000万円の総額2億500万円の資金が5年間にわたり提供されます。

去る10月19日には、石川知事から日清グループに感謝状が贈呈され、その際、日清ファルマ(株)の中村社長は、県立大学をパートナーに選んだ理由として、「県立大学は、薬学、食品の研究体制が充実しており、21世紀COEプログラム等で成果を挙げている。生命科学、食品科学の人材も豊富であり、高次機能性食品の研究には最適である。」として県立大学との研究協力を大きな期待を表明されました。

第10回静岡健康・長寿学術フォーラムを開催

静岡県では、高齢社会を迎え、健康長寿や高齢者のQOL向上に関する関心が高まりつつある中で、健康・長寿社会に関する最新かつ高度な学術研究成果等の発表や討論を行い、この分野の学問の発展と人材の育成を目指し、得られた学術情報を広く内外に発信することを目的として、平成8年から「静岡健康・長寿学術フォーラム」を継続して開催しています。

今年度の「第10回静岡健康・長寿学術フォーラム」は、健康長寿の科学・文化を考える“フォーラム10年の歩みと未来への提言”をテーマとして、静岡健康・長寿学術フォーラムの総括、健康長寿科学の理念、健康長寿科学を支える専門領域、健康長寿社会の未来像、実践的な長寿社会の生き方の提案などについて2日間にわたり内外の第一級の研究者による講演が行われました。

また、今回のフォーラムは、本学21世紀CO

Eプログラム推進拠点
が共催し、
食品栄養科学部の伊勢
村護教授が
実行委員会
委員長を務
めました。



石川嘉延静岡県知事、廣部雅昭静岡健康・長寿学術フォーラム組織委員長の開催挨拶に続き、2002年度ノーベル医学・生理学賞受賞者であるシドニー・ブレンナー博士の記念講演が行われ、会期2日間で2,497人の参加者がありました。これは、プレフォーラムを含めた過去11回のフォーラムの中でも、三笠宮寛仁殿下の講演が行われた第3回の3,507人に次ぐ多数の参加者となりました。

ノーベル賞受賞者シドニー・ブレンナー博士 による特別講演会を開催

去る10月27日、本学大講堂において、第10回静岡健康・長寿学術フォーラムの特別講演会として、本学21世紀COEプログラム推進拠点の主催により、2002年度ノーベル医学・生理学賞受賞学者シドニー・ブレンナー博士の講演会が開催されました。ブレンナー博士は、高校生や大学生、研究者ら約800人の聴衆を前に「How to Win a Nobel Prize」と題してユーモアを交えて語りかけ、



学生達には「無知も大事で、
純粹で無知な若者がとにかく何でもやってみることが



大切。Work hard!」とのメッセージを残されました。

また、講演会終了後、学生ホールにおいて、同博士を囲んで交流会が催され、本学学生、教員等と交流を深めておられました。

「シドニー・ブレンナー博士のサイン」

第3回「産・学・民・官連携を考える集い」を開催

産学連携推進委員会委員長 木苗直秀

平成17年11月25日(金)に本学の第3回「産・学・民・官連携を考える集い」が開催された。

この行事は、「産・学・民・官の連携促進」をテーマに学外の企業、団体、行政を県立大学にお招きし、本学の教職員と交流を図ることで、本学の研究教育の成果(シーズ)を社会のニーズとマッチングし、産学民官連携事業を進める「場を作る」ための行事である。

内容は、研究室公開、パネルディスカッション、交流会、研究情報公開コーナーの四部構成で、特にと は本年初めて企画されたものであった。

第1部の研究室公開は、午後1時30分から3時20分まで各学部で行なわれた。各研究室では研究内容のポスターを掲示し、教員が学外の企業や研究機関、行政関係者等に熱心に説明し、意見交換する姿が見られた。

研究室公開

第2部は、大講堂で午後3時30分から開催され、西垣学長の挨拶に続いて、来賓として出席された石川知事よりご挨拶をいただいた。その後、「産・学・民・官連携への期待 ~聞きたい!言いたい!結びたい!~」をテーマとしてパネルディスカッションを行なった。

まず、木苗直秀産学連携推進委員長が、コーディネーターとして、県立大学の産学民官連携について現状報告をしたのち、「産」から、海産物を活用した機能性食品の開発に取り組む焼津水産化学工業(株)の坂井和男社長、「民」からは、地場産業の活性化の観点から、財団法人静岡



パネルディスカッション

岡経済研究所の佐藤克昭副理事長が、「官」としては、県内中小企業の総合的支援機関である財団法人しずおか産業創造機構の望月暹副理事長が、「学」か

ら、本学の園部尚薬学部教授が、それぞれの立場から本学への要望と期待、産学民官の連携をより一層促進するためには何が必要であるか等について、会場からも発言を求めながら、活発な意見交換が行なわれた。

第3部として、午後5時30分から学生ホールで、栗原出納長の挨拶、梅田商工労働部長の乾杯の発声の後、企業、研究機関、行政関係者と本学教職員など、およそ200名が参加して、交流会が開催された。途中、本学マンドリン部による素晴らしい演奏も行なわれ、和やかな雰囲気の中で、飲み物を片手に会場のあちこちで、名刺交換を含め、交流が行なわれた。



交流会

第4部として、小講堂では午後1時から午後5時20分まで「研究情報公開コーナー」が開催された。21世紀COEプログラムや都市エリア事業の紹介の他、学内の25人の研究者が研究内容をパネルやポスター、試作品を展示してアピールした。また、学外からも本学が関係するファルマバレー、フォトンバレー、海洋深層水(焼津市)、日清製粉グループ等から出展され、石川知事、栗原出納長も展示内容の説明に熱心に耳を傾ける光景が見られた。

今回の行事について、学内外の方々に御参加・御協力をいただきましたことを、厚く御礼申し上げます。本学は法人化を控えており、益々産学民官の連携は重要となりますので、より力強く事業を推進していきたいと考えており、引き続き御理解と御協力をお願いします。



研究情報公開コーナー



クラブ・サークル紹介

■ マンドリンクラブ

国際関係学部 国際言語文化学科3年 市ノ瀬 雄介

先日(12月4日)第17回になる定期演奏会を無事に開催することができました。この演奏会にご来場、ご協力いただいた多くの方々に心から御礼申し上げます。

さて、今回はマンドリンクラブについて、もっと多くの方に知っていただくためにマンドリンクラブについて少し説明したいと思います。

マンドリンという名前をはじめて聞く人もいるのではないのでしょうか。マンドリンはイタリア生まれの楽器で、形は琵琶に似ています。ギターのようにピックを使って音を出します。弦を連続してはじく、トレモロという奏法で長い音を出し、メロディが生み出されます。その音色は大変美しく、一度聞いたらやみつきになることと思います。私も学生ホールでの演奏を聞



定期演奏会

いてこのクラブに入部しました。一度聴いてみると分かるかもしれませんが、マンドリンはどこか悲しげなメロディの似合う楽器です。しかし、マンドリンオーケストラになるとその迫力は相当なものになります。マンドリンクラブでは、このマンドリンオーケストラ(合奏)のスタイルで演奏会を開いています。

マンドリンオーケストラでは、マンドリンの仲間で音程の異なるマンドラやマンドロンセロにクラシックギターやコントラバスを加えて合奏します。演奏する曲はマンドリンのために書かれた曲から、吹奏楽曲を編曲したもの、ポップスなど様々です。例えば、先の演奏会では結婚行進曲やカルメンといったクラシックの曲も演奏しました。

続いて、クラブの活動について説明します。マンドリンクラブは年二回の演奏会を軸に活動していて、毎年5月と12月に開催しています。まず、5月の演奏会は静岡大学のマンドリンクラブと一緒に合同演奏会です。今年で35周年を迎えた歴史ある演奏会で、大人数で行うステージはかなりの迫力です。市内の音楽ホールを借りて行うため、どなたでも足を運びやすいかと思います。次に12月に行う演奏会ですが、こちらは県大主催の定期演奏会です。6月から半年かけて仕上げる曲は、みな思い入れのある曲ばかりです。3部ステージ構成で、1部はマンドリンオリジナル曲のステージ、2部はどこかで聴いたことのあるポピュラーミュージックステージ、そして3部はメインステージと約2時間にわたるボリュームある構成になっています。

クラシック音楽というとなんか遠慮してしまう人もマンドリンはどこか懐かしさを感じさせてくれる楽器です。演奏会も堅苦しいものではなく、お客様と奏者が音楽を楽しめる場を作り出そうという姿勢で部員一同練習に励んでおります。どなたでも気軽にきていただけるように演奏会は、すべて無料なので映画を見に行くような感覚で一度でも足を運んでいただければ幸いです。



産・学・民・官連携を考える集い・交流会にて

また、これから音楽を始めたいと思っている人にもびったりだと思えます。大学から始める人がほとんどなので経験はなくても、音楽したいという心があればいつでも入部OKです。長くなりましたが、最後まで読んでいただきありがとうございます。これからもマンドリンクラブをよろしく願います。

平沢寺のお田植え地蔵

県立大学・県立美術館の西がわの谷を平沢というが、ここに名刹『平沢寺』がある。いまは清水に引越し『鉄舟寺』になった新義真言宗『久能寺』に属し、朱印十五石であった。行基作といわれる『観音菩薩』を本尊とするが、この客院本殿に同じく行基作といわれる『延命地蔵尊』がある。有名な、『お田植え地蔵』である。

『庶民を助ける地蔵さま』

天文年間のこと、駿河一帯に疫病が発生した。平沢の人々の多くが病床に伏した。ちょうど田植えの時期だったので、軽い病のものは気力をふりおこして田植えをした。

しかし、お寺の前だけは植えられなかった。村人は、必死になり、『早く病を治してください。そして田植えができるようにしてください』とこの地蔵さまにお祈りをした。

谷田風土記

『脚にドロがつく』

ところが、ある朝、寺の前の田圃の稲が一晩で植えられていたのである。

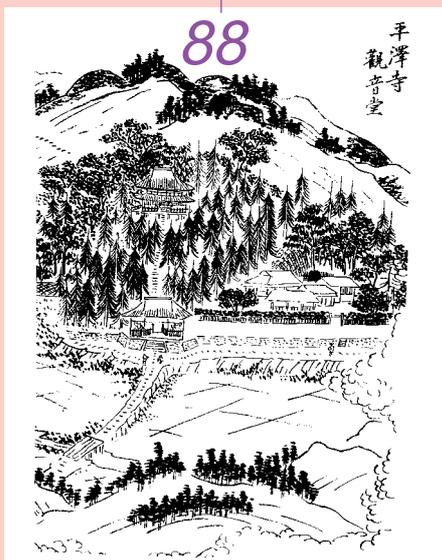
誰が植えたか、村人は不思議がった。そこへ住職が出てきて、『誠に不思議だ。今朝お勤めのお経をあげようと本堂を見たら、床に泥足のあとが着いていた。ひょっとすると地蔵さまではないか』

『いまなおあつい信仰』

それを聞いた村人が本殿に入り、地蔵さまの脚を見ると、泥が着いていた。『和尚の言うとおりだ』、皆その尊さに手を合わせたという。以来今日にいたるまで、『お田植え地蔵』と呼ばれているのである。

地元『有度連合自治会』発行の『ふるさと有度』（1980年3月刊）に紹介されている伝説である。同寺は歩いてもすぐなので、一度散策をお勧めしたい。

（国際関係学部教授 高木 桂蔵）



平沢寺と門前の田圃。「駿河記」(江戸時代)より

奨学金をありがとうございます

「南富士産業奨学金」授与式

南富士産業(株)奨学金授与式が10月26日に本学で行われました。

本奨学金は、南富士産業(株)により、向学心に燃える優秀な学生を援助し、国際社会、文化に貢献する人材育成の一助とすることを目的として設立され、今年度で9回目を迎えました。

「中国茶について」等を論文テーマに募集し、生活健康科学研究科博士前期課程1年鮎澤利重さんが選ばれました。

授与式では、南富士産業(株)の杉山定久代表取締役社長から奨学金を贈られ、奨学生が「奨学金を有効に活用し、血管系疾患予防のための研究に打ち込みたいと思います。」とお礼の言葉を述べました。



学内ニュース「はばたき」への寄稿を大歓迎！

教職員・大学院生の皆様の受賞、研究助成への採択、学会・研究集会の案内、クラブ・サークル活動報告、ボランティア活動などの寄稿をお寄せください。大歓迎します。

事務局経営課・企画スタッフ（管理棟2階）あてをお願いします。E-mail:kikaku3@u-shizuoka-ken.ac.jp

企画・編集：静岡県立大学広報委員会（事務局 TEL 054-264-5103）

静岡県立大学ホームページアドレス：<http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp>